

かしそく新聞

～訪問診療 編～

かつしか心身総合クリニック

通院困難な方を診察致します！



駒形理事長回想紀行⑦「人間回復の橋」を知っていますか？」

邑久長島大橋は、瀬戸内の小島である長島と本州の間の僅か 35m の海峡に、昭和 63 年 5 月 9 日に開通した橋です。どこにでもある何の変哲もない橋ですが、私にとっては感慨深い橋です。この橋は「人間回復の橋」とも言われています。▽昭和 53 年に私は、大学の先生に引率されて、医学生として長島を訪れました。目的は国立療養所「長島愛生園」での研修です。長島愛生園は、ハンセン病の施設で、松本清張さんによる小説『砂の器』で有名になり、映画化されたり、何度かテレビドラマ化されたりしていて、既にご存知の方もいらっしゃるかもしれません。私たちが訪問した当時邑久長島大橋はまだ無く、赤穂線日生駅で下車して、小さな連絡船に乗って長島に向かいました。当時長島には「愛生園」と「光明園」の2つのハンセン病の国立療養所があり、私達は愛生園を訪問し、施設内を見学後に療養所の原田^{のぶお}禹雄先生から講義を受けました。また、すでに退官されていてお会いすることはできませんでしたが、同園で精神科医として勤務されていた神谷美恵子先生^{のぶお}の存在を知り、『生きがいについて』『人間を見つめて』などの著書を拝読するきっかけになりました。▽この長島愛生園訪問と原田禹雄の講義と神谷美恵子先生の著書は、その後の私の医師としての活動に大きな影響を受けたと考えております。(次号『かしそく新聞』第4号に続く…)

◎医師、看護師が定期的に訪問し、また各種サービスとの連携を図り、みなさまの住みなれた地域での生活をサポートいたします。
まずはお電話でご相談ください！

編集後記～スタッフのつぶやき～

「誰か教えてくれないか 死なない方法ではなく 思い出を忘れない秘法を」。これは、台湾の人気バンド「五月天」の楽曲「轉眼」の歌詞の一部です。人生の最終章、私たちは何を思い、何を感じて最期を迎えるのでしょうか。とても意味深い歌詞に感銘を受け、よく聴く歌のひとつになりました。当クリニックでも患者様ひとりひとりの思いを大切にしながら、サポートしていければと考えておりますので、よろしく願いいたします。(K)

医療財団法人ファミリーユ

かつしか心身総合クリニック

〒125-0041 葛飾区東金町 1-41-1 桜井ビル 2 階

①外来：心療内科＝大川院長、永井医師(非常勤)
 内科＝駒形清則医師

②訪問診療

内科＝駒形清則医師、成相医師

駒形明紀医師(非常勤)

精神科＝米谷医師(非常勤)

神経内科＝今井医師(非常勤)

※詳しくはホームページをご覧ください、お電話にてお問い合わせ下さい。

TEL03-3627-0233